

# 学習指導要領の三つの柱の考え方に基づいた 授業づくりの手順と条件

大分大学教育学部附属特別支援学校

令和6年 1月24日(水)版

## 用語の定義

「知識及び技能」 → 他者（教師、友だち、教材教具）から学ぶ、未知の課題を解決するための基盤となる具体的な教科の指導内容やそれらを習得したと判断できる技能的な姿

「思考力・判断力・表現力等」 → 具体的状況の中で習得した知識及び技能を活用し、思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する姿

「学びに向かう力・人間性等」 → 知識及び技能の習得や活用の仕方を身につけるといいう学習の目的に向かって自ら進んで活動する姿

「場面」 → 知識及び技能を習得すると予想される具体的な場面

「わかること」 → 目には見えない教科の指導内容やそれらを習得するために理解・実感する必要のある事柄

「できた姿」 → 知識を習得したと判断するための児童生徒の姿

「具体的状況」 → 未知の課題に取り組むときの具体的な状況

「未知の課題」 → 知識及び技能を選択・適合したり、組み合わせたりすることで解決できる課題

「表出像」 → 思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する児童生徒の姿

「展開」 → 知識及び技能を習得するための学習活動

「発展」 → 知識及び技能の定着を図ったり、習得した知識及び技能を活用して未知の課題を解決したりするための学習活動

「教材」 → 指導内容に従って意図的に設定する必要のある教育課程を構成する内容的素材

【算数・数学】小学部／中学部／高等部 低段階

手順	条件及び視点	取り組むに当たって																																																																									
① 指導領域の前題材までの到達状況から「知識及び技能」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒の中で、段階が最も低い児童生徒が到達しているところから段階が最も高い児童生徒が1題材で到達できそうなところまでの全ての「知識及び技能」を挙げる</li> <li>※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「知識及び技能」を挙げる</li> <li>○ 前題材までにできていることでも、状況や扱う物が変わってもできるようにするという視点も踏まえて検討する</li> <li>○ この段階で「教材」を大まかに検討し、「教材」の学習活動の中での「知識及び技能」の「できた姿」を想定して、その姿に必要な領域の「知識及び技能」を挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画の評価及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を定める</li> <li>○ 「知識及び技能」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「知識及び技能」の内容を具体化する</li> </ul>																																																																									
② 列挙した「知識及び技能」を段階化する	○ 「知識及び技能」を系統的に確実に習得できるように、列挙した「知識及び技能」を易→難の順に配列する																																																																										
③ 段階化した「知識及び技能」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する	○ 在籍する児童生徒それぞれの学び取りの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする																																																																										
④ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために内容を細分化する	○ 手順③までに具体化、段階化した学習指導要領の「知識及び技能」の内容を基に、題材終了時の児童生徒の「できた姿」を具体的に設定した上で行う																																																																										
⑤ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する	○ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する	○ 実態把握の原則として、児童生徒の出方に対して正解も不正解も伝えない																																																																									
⑥ 「知識及び技能」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教材」に興味・関心をもち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「二次」の最後の時間までにできるようにした課題に繰り返し取り組む段階を「三次」と捉えて計画する</li> <li>○ 「知識及び技能」の実態把握の結果を基にして、「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてを設定するために、その時間の「できた姿」と「場面」を具体的に設定した後に「わかること」を設定する</li> <li>○ 「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてに到達するまでに必要な「できた姿」と「場面」「わかること」を挙げ、段階化して配列する</li> <li>○ この段階の児童生徒の学び取りの傾向から、技能的な活動を繰り返し行うことを通して教科の「知識及び技能」が習得できるように計画してもよい</li> <li>○ 「知識及び技能」の内容を指導するための具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかること」を設定する際は、児童生徒の学び取りの傾向に応じて、以下に示す段階の①と②の中から適切なものを設定する</li> <li>①「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階</li> <li>②「～がわかり」…理解する段階</li> <li>③「～に気づき」…既に理解していることから、新しいことを理解する段階</li> </ul>																																																																									
⑦ 「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」の「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対する「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の1時間ごとのめあてを設定する際は、「表出像」を具体化し、それらを引き出すための「具体的状況」と「未知の課題」を検討するが、この段階の児童生徒の学び取りの傾向から、扱う物などを変えて取り組むことも「未知の課題」として捉えた上で設定する</li> <li>○ 手順⑥で設定した「教材」を見直し、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する</li> </ul>																																																																										
⑧ 「教材」の仕組みを決定する	○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する																																																																										
⑨ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">【目的をもつ7つの子ども像】</th> <th colspan="2" rowspan="2">設定する段階と目安となる題材の位置</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th colspan="4">◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない</th> </tr> <tr> <th>低段階</th> <th>中段階</th> <th>高段階</th> <th>導入</th> <th>展開</th> <th>発展</th> <th>終末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②できるようになったことを持続しようとする子ども</td> <td colspan="2">二次の最後～三次</td> <td>－</td> <td colspan="2">◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>③意欲をもち、自分から取り組む子ども</td> <td colspan="2">二次前半</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども</td> <td>二次前半 ～ 二次半ば</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども</td> <td>－</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>⑥友だちと学び合う子ども</td> <td>－</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑦自分で工夫し、発展していく子ども</td> <td>－</td> <td colspan="2">二次全般と三次</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>	【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置		設定する学習活動				◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない				低段階	中段階	高段階	導入	展開	発展	終末	①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎	②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次		－	◎		－	③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		－	○	◎	◎	－	④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○	⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－	⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○	⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－	
【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置				設定する学習活動																																																																						
			◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない																																																																								
	低段階	中段階	高段階	導入	展開	発展	終末																																																																				
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎																																																																				
②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次		－	◎		－																																																																					
③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		－	○	◎	◎	－																																																																				
④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○																																																																				
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－																																																																				
⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○																																																																				
⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－																																																																				

「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

- ①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか
- ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか
- ③1つの教材でグループの児童生徒全員の指導内容を扱うことができるか
- ④興味・関心をもてるか

【算数・数学】小学部／中学部／高等部 中段階

「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか  
 ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか  
 ③1つの教材でグループの児童生徒全員の指導内容を扱うことができるか  
 ④興味・関心をもてるか

手順	条件及び視点	取り組むに当たって																																																																											
① 指導領域の前題材までの到達状況から「知識及び技能」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒の中で、段階が最も低い児童生徒が到達しているところから段階が最も高い児童生徒が1題材で到達できそうなところまでの全ての「知識及び技能」を挙げる</li> <li>※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「知識及び技能」を挙げる</li> <li>○ この段階で「教材」を大まかに検討し、「教材」の学習活動の中での「知識及び技能」の「できた姿」を想定して、その姿に必要な領域の「知識及び技能」を挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画の評価及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を定める</li> <li>○ 「知識及び技能」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「知識及び技能」の内容を具体化する</li> </ul>																																																																											
② 列挙した「知識及び技能」を段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」を系統的に確実に習得できるように、列挙した「知識及び技能」を易→難の順に配列する</li> </ul>																																																																												
③ 段階化した「知識及び技能」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒それぞれの学び取りの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする</li> </ul>																																																																												
④ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために内容を細分化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手順③までに具体化、段階化した学習指導要領の「知識及び技能」の内容を基に、題材終了時の児童生徒の「できた姿」を具体的に設定した上で行う</li> </ul>																																																																												
⑤ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態把握の原則として、児童生徒の出方に対して正解も不正解も伝えない</li> </ul>																																																																											
⑥ 「知識及び技能」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教材」に興味・関心を持ち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「二次」の最後の時間にできるようにした課題に繰り返し取り組む段階を「三次」と捉えて計画する</li> <li>○ 「知識及び技能」の実態把握の結果を基にして、「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてを設定するために、その時間の「できた姿」と「場面」を具体的に設定した後に「わかること」を設定する</li> <li>○ 「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてに到達するまでに必要な「できた姿」と「場面」「わかること」を挙げ、段階化して配列する</li> <li>○ 「知識及び技能」の内容を指導するための具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかること」を設定する際は、児童生徒の学び取りの傾向に応じて、以下に示す段階の①と②の中から適切なものを設定する</li> <li>①「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階</li> <li>②「～がわかり」…理解する段階</li> <li>③「～に気づき」…既に理解していることから、新しいことを理解する段階</li> </ul>																																																																											
⑦ 「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」の「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対する「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の1時間ごとのめあてを設定する際は、「表出像」を具体化し、それらを引き出すための「具体的状況」と「未知の課題」を検討する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、1時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用の状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい</li> <li>○ 手順⑥で設定した「教材」を見直し、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「具体的状況」と「未知の課題」を具体化する際は、学習指導要領の内容の文言や学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にするとよい</li> </ul>																																																																											
⑧ 「教材」の仕組みを決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する</li> </ul>																																																																												
⑨ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">【目的をもつ7つの子ども像】</th> <th colspan="3">設定する段階と目安となる題材の位置</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">低段階</th> <th rowspan="2">中段階</th> <th rowspan="2">高段階</th> <th colspan="4">◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない</th> </tr> <tr> <th>導入</th> <th>展開</th> <th>発展</th> <th>終末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②できるようになったことを持続しようとする子ども</td> <td colspan="3">二次の最後～三次</td> <td>－</td> <td colspan="2">◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>③意欲をもち、自分から取り組む子ども</td> <td colspan="2">二次前半</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども</td> <td>二次前半 ～ 二次半ば</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども</td> <td>－</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>⑥友だちと学び合う子ども</td> <td>－</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑦自分で工夫し、発展していく子ども</td> <td>－</td> <td colspan="2">二次全般と三次</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>	【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動				低段階	中段階	高段階	◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない				導入	展開	発展	終末	①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎	②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次			－	◎		－	③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		－	○	◎	◎	－	④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○	⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－	⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○	⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－	
【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動																																																																									
	低段階		中段階	高段階	◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない																																																																								
		導入			展開	発展	終末																																																																						
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎																																																																						
②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次			－	◎		－																																																																						
③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		－	○	◎	◎	－																																																																						
④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○																																																																						
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－																																																																						
⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○																																																																						
⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－																																																																						

【算数】 小学部 高段階

「教材」の検討について  
 「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか  
 ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか  
 ③1つの教材でグループの児童全員の指導内容を扱うことができるか  
 ④興味・関心をもてるか

手順	条件及び視点	取り組みに当たって																																																																														
① 指導領域の前題材までの到達状況から「知識及び技能」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童の中で、段階が最も低い児童が到達しているところから段階が最も高い児童が1題材で到達できそうなところまでの全ての「知識及び技能」を挙げる ※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「知識及び技能」を挙げる</li> <li>○ この段階で「教材」を大まかに検討し、「教材」の学習活動の中での「知識及び技能」の「できた姿」を想定して、その姿に必要な領域の「知識及び技能」を挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画の評価及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を定める</li> <li>○ 「知識及び技能」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「知識及び技能」の内容を具体化する</li> </ul>																																																																														
② 列挙した「知識及び技能」を段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」を系統的に確実に習得できるように、列挙した「知識及び技能」を易→難の順に配列する</li> </ul>																																																																															
③ 段階化した「知識及び技能」の一覧から、グループの児童それぞれの指導内容の範囲を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童それぞれの学び取りの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする</li> </ul>																																																																															
④ 各児童の指導内容（知識及び技能）の習得のために内容を細分化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手順③までに具体化、段階化した学習指導要領の「知識及び技能」の内容を基に、題材終了時の児童の「できた姿」を具体的に設定した上で行う</li> </ul>																																																																															
⑤ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧を実態表の項目として、児童の実態を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態把握の原則として、児童の出方に対して正解も不正解も伝えない</li> </ul>																																																																														
⑥ 「知識及び技能」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教材」に興味・関心を持ち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「二次」の最後の時間にできるようになった課題に繰り返し取り組む段階を「三次」と捉えて計画する</li> <li>○ 「知識及び技能」の実態把握の結果を基にして、「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてを設定するために、その時間の「できた姿」と「場面」を具体的に設定した後に「わかること」を設定する</li> <li>○ 「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてに到達するまでに必要な「できた姿」と「場面」「わかること」を挙げ、段階化して配列する</li> <li>○ 「知識及び技能」の内容を指導するための具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかること」を設定する際は、児童の学び取りの傾向に応じて、以下に示す段階の①と②の中から適切なものを設定する ①「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階 ②「～がわかり」…理解する段階 ③「～に気づき」…既に理解していることから、新しいことを理解する段階</li> </ul>																																																																														
⑦ 「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」の「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対する「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の1時間ごとのめあてを設定する際は、「表出像」を具体化し、それらを引き出すための「具体的状況」と「未知の課題」を検討する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、1時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用の状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい</li> <li>○ 手順⑥で設定した「教材」を見直し、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「具体的状況」と「未知の課題」を具体化する際は、学習指導要領の内容の文言や学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にするとよい</li> </ul>																																																																														
⑧ 「教材」の仕組みを決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する</li> </ul>																																																																															
⑨ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">【目的をもつ7つの子ども像】</th> <th colspan="3">設定する段階と目安となる題材の位置</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th>低段階</th> <th>中段階</th> <th>高段階</th> <th colspan="4">◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない</th> </tr> <tr> <th>二次半ば ～ 三次</th> <th>二次全般</th> <th>二次前半</th> <th>導入</th> <th>展開</th> <th>発展</th> <th>終末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②できるようになったことを持続しようとする子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>③意欲をもち、自分から取り組む子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども</td> <td>二次半ば ～ 二次半ば</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども</td> <td>二次半ば ～ 二次半ば</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>⑥友だちと学び合う子ども</td> <td>二次半ば ～ 二次半ば</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑦自分で工夫し、発展していく子ども</td> <td>二次半ば ～ 二次半ば</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>	【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動				低段階	中段階	高段階	◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない				二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	導入	展開	発展	終末	①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	○	○	○	◎	②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－	③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	○	◎	◎	－	④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	－	◎	◎	○	⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－	⑥友だちと学び合う子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	○	◎	◎	○	⑦自分で工夫し、発展していく子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	－	○	◎	－	
【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動																																																																												
	低段階		中段階	高段階	◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない																																																																											
	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	導入	展開	発展	終末																																																																									
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	○	○	○	◎																																																																									
②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－																																																																									
③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般	二次前半	○	◎	◎	－																																																																									
④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	－	◎	◎	○																																																																									
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－																																																																									
⑥友だちと学び合う子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	○	◎	◎	○																																																																									
⑦自分で工夫し、発展していく子ども	二次半ば ～ 二次半ば	二次全般	二次前半	－	○	◎	－																																																																									

【数学】 中学部／高等部 高段階

「教材」の検討について  
 「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか  
 ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか  
 ③1つの教材でグループの生徒全員の指導内容を扱うことができるか  
 ④興味・関心をもてるか

手順	条件及び視点	取り組みに当たって																																																																																	
① 指導領域の前題材までの到達状況から「知識及び技能」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する生徒の中で、段階が最も低い生徒が到達しているところから段階が最も高い生徒が1題材で到達できそうなところまでの全ての「知識及び技能」を挙げる ※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「知識及び技能」を挙げる</li> <li>○ この段階で、「教材」と題材終了時の「表出像」を大まかに検討し、その姿に必要な領域の「知識及び技能」を挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画の評価及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を決める</li> <li>○ 「知識及び技能」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「知識及び技能」の内容を具体化する</li> <li>○ 必要に応じて、学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にするとよい</li> </ul>																																																																																	
② 列挙した「知識及び技能」を段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」を系統的に確実に習得できるように、列挙した「知識及び技能」を易→難の順に配列する</li> <li>○ 複数の領域から「知識及び技能」を挙げた場合は、領域ごとに「知識及び技能」を段階化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要に応じて、学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にし、扱う順序を検討する</li> </ul>																																																																																	
③ 段階化した「知識及び技能」の一覧から、グループの生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する生徒それぞれの学び取りの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする</li> </ul>																																																																																		
④ 各生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために内容を細分化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手順③までに具体化、段階化した学習指導要領の「知識及び技能」の内容を基に、題材終了時の生徒の「できた姿」を具体的に設定した上で行う</li> </ul>																																																																																		
⑤ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧と題材終了時の表出像を実態表の項目として、生徒の実態を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する</li> <li>○ 「表出像」には、「教材」の学習活動の中でできてほしい姿を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態把握の原則として、生徒の出方に対して正解も不正解も伝えない</li> </ul>																																																																																	
⑥ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教材」に興味・関心をもち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「具体的状況」や「未知の課題」が「二次」とは異なる状況で習得した全ての「知識及び技能」を選択・適合、組み合わせたりする段階を「三次」と捉えて計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の題材目標を確定するために、題材終了時の具体化した「具体的状況」と「表出像」を三次に設定し、生徒それぞれの学び取りの傾向を考慮して、そこに到達するために扱う「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の時間を段階的に割り振る</li> <li>○ 「知識及び技能」の実態把握の結果を基にして、「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてを設定するために、その時間の「できた姿」と「場面」を具体的に設定した後に「わかること」を設定する</li> <li>○ 「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてに到達するまでに必要な「できた姿」と「場面」「わかること」を挙げ、段階化して配列する</li> <li>○ 「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対する「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うことを検討するが、生徒それぞれの学び取りの傾向から、1時間ごとに「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱い、それぞれのめあてを設定することを基本として計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の1時間ごとのめあてを設定する際は、「表出像」を具体化し、それらを引き出すための「具体的状況」と「未知の課題」を検討する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、1時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用の状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい</li> <li>○ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかること」を設定する際は、生徒の学び取りの傾向に応じて、以下に示す段階の中から適切なものを設定する ①「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階 ②「～がわかり」…理解する段階 ③「～に気づき」…既に理解していることから、新しいことを理解する段階</li> <li>○ 「具体的状況」と「未知の課題」を具体化する際は、学習指導要領の内容の文言や学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にするとよい</li> </ul>																																																																																	
⑦ 「教材」の仕組みを決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する</li> </ul>																																																																																		
⑨ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">【目的をもつ7つの子ども像】</th> <th colspan="3">設定する段階と目安となる題材の位置</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">低段階 二次半ば ～ 三次</th> <th rowspan="2">中段階</th> <th rowspan="2">高段階</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th>◎：基本的に設定する</th> <th>○：必要に応じて設定する</th> <th>－：基本的に設定しない</th> <th></th> </tr> <tr> <th></th> <th>導入</th> <th>展開</th> <th>発展</th> <th>終末</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②できるようになったことを持続しようとする子ども</td> <td colspan="3">二次の最後～三次</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>③意欲をもち、自分から取り組む子ども</td> <td colspan="2">二次前半</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども</td> <td>二次前半 ～ 二次半ば</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども</td> <td>－</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>⑥友だちと学び合う子ども</td> <td>－</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑦自分で工夫し、発展していく子ども</td> <td>－</td> <td colspan="2">二次全般と三次</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>	【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動				低段階 二次半ば ～ 三次	中段階	高段階	設定する学習活動				◎：基本的に設定する	○：必要に応じて設定する	－：基本的に設定しない			導入	展開	発展	終末		①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎	②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次			－	◎	－	－	③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		－	○	◎	◎	－	④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○	⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－	⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○	⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－	
【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動																																																																															
	低段階 二次半ば ～ 三次		中段階	高段階	設定する学習活動																																																																														
		◎：基本的に設定する			○：必要に応じて設定する	－：基本的に設定しない																																																																													
	導入	展開	発展	終末																																																																															
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎																																																																												
②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次			－	◎	－	－																																																																												
③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		－	○	◎	◎	－																																																																												
④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○																																																																												
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－																																																																												
⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○																																																																												
⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－																																																																												

【国語】小学部／中学部／高等部 低段階

「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

- ①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか
- ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか
- ③1つの教材でグループの児童生徒全員の指導内容を扱うことができるか
- ④興味・関心をもてるか

手順	条件及び視点	取り組むに当たって																																																																											
① 指導領域の前題材までの到達状況から、「表出像」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒の中で、段階が最も低い児童生徒が到達しているところから段階が最も高い児童生徒が1題材で到達できそうなどころまでの全ての「表出像」を挙げる</li> <li>○ 「表出像」が他の領域と関連がある場合は、関連する領域における到達状況も把握しておく</li> <li>※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「表出像」を挙げる</li> <li>○ この段階で「表出像」と関連する「教材」を大まかに検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画の評価及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を定める</li> <li>○ 「表出像」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「思考力・判断力・表現力等」の内容を具体化する</li> </ul>																																																																											
② 列挙した「表出像」を段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」を系統的に確実に習得したり、活用したりすることができるように、列挙した「表出像」を易→難の順に配列する</li> </ul>																																																																												
③ 段階化した「表出像」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒それぞれの学び取りの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする</li> <li>○ 「表出像」が他の領域と関連がある場合は、関連する領域における到達状況も踏まえて決定する</li> </ul>																																																																												
④ 指導内容の範囲となった「表出像」に必要な「知識及び技能」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導内容の範囲として決定した「表出像」の中で、選択・適合したり、組み合わせたりしている「知識及び技能」の内容を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」の内容と同じ段階の「知識及び技能」の内容とのつながりを確認し、学習指導要領の「知識及び技能」の内容から、設定した「表出像」に必要なものを挙げる</li> </ul>																																																																											
⑤ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために「知識及び技能」の内容を細分化・段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手順④で挙げた「知識及び技能」の内容を細分化し、易→難の順に段階化する</li> <li>○ 国語の教科特性として、「知識及び技能」を理解していることに基づいた姿が限定しづらいため、各項目の内容は児童生徒の姿ではなく、その内容に該当する様々な姿を包括できる表記で設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領解説の「知識及び技能」の内容についての解説を確認しながら行う</li> <li>○ ここまで挙げた「知識及び技能」の内容と本校の基本的な考え方を照らし合わせ、題材の中心として扱うものと配慮的に扱うものを検討しておく</li> </ul>																																																																											
⑥ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧と題材終了時までの「表出像」を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する</li> <li>○ 「表出像」には、「教材」の学習活動の中でできてほしい姿を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態把握の原則として、児童生徒の出方に対して正解も不正解も伝えない</li> <li>○ 実態把握時の姿だけではなく、学校生活全般の姿も踏まえて実態を把握する</li> </ul>																																																																											
⑦ 実態把握の結果から、中心として取り上げる「知識及び技能」を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」と「表出像」の実態把握の結果と本校の基本的な考え方を照らし合わせ、題材の中心として扱うことができるものを取り上げるようにする</li> <li>○ 国語の教科特性から、「知識及び技能」を習得していると考えられる場合でも、それらを場面に応じて選択・適合したり、組み合わせたりすることができるかという視点でも検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の中心として扱う「知識及び技能」は、以下の視点で検討し、決定する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1題材で達成可能な内容か</li> <li>・ 生活に生きる価値のある内容か</li> <li>・ 国語の題材で扱うべき内容か</li> </ul> </li> </ul>																																																																											
⑧ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教材」に興味・関心をもち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「二次」の最後の時間までに行きわたった課題に繰り返し取り組む段階を「三次」と捉えて計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の題材目標を確定するために、題材終了時の「具体的状況」と「表出像」を具体化し、「三次」に設定する</li> <li>○ 題材終了時の「表出像」に到達するために必要な「具体的状況」と「表出像」を具体化し、段階化する</li> <li>○ 段階化したそれぞれの「表出像」に到達するために必要な「知識及び技能」の「できた姿」と「場面」「わかること」を具体化し、児童生徒それぞれの学び取りの傾向を考慮して、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の扱う時数を割り振り、「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対応する「表出像」を設定する</li> <li>○ 1時間ごとの「知識及び技能」のめあてを達成するための活動については、「思考力・判断力・表現力等」を身につけるための一連の学習活動の中で行うように計画する</li> <li>○ 児童生徒の学び取りの傾向から、技能的な活動を繰り返し行うことを通して教科の「知識及び技能」の習得やその活用の仕方を身につけることができるように計画してもよい</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、1時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を主として扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用の状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい</li> <li>○ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかること」を設定する際は、児童生徒の学び取りの傾向に応じて、以下に示す段階の①と②の中から適切なものを設定する <ol style="list-style-type: none"> <li>①「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階</li> <li>②「～がわかり」…理解する段階</li> <li>③「～に気づき」…既に理解していることから、新しいことを理解する段階</li> </ol> </li> <li>○ 「具体的状況」と「未知の課題」を具体化する際は、学習指導要領の内容の文言を参考にするとよい</li> </ul>																																																																											
⑨ 「教材」の仕組みを決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する</li> </ul>																																																																												
⑩ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">【目的をもつ7つの子ども像】</th> <th colspan="3">設定する段階と目安となる題材の位置</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">低段階</th> <th rowspan="2">中段階</th> <th rowspan="2">高段階</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th>導入</th> <th>展開</th> <th>発展</th> <th>終末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども</td> <td>二次半ば ～ 三次</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②できるようになったことを持続しようとする子ども</td> <td colspan="3">二次の最後～三次</td> <td>—</td> <td colspan="2">◎</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>③意欲をもち、自分から取り組む子ども</td> <td colspan="2">二次前半</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども</td> <td>二次前半 ～ 二次半ば</td> <td>二次前半</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども</td> <td>—</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>⑥友だちと学び合う子ども</td> <td>—</td> <td colspan="2">二次全般</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑦自分で工夫し、発展していく子ども</td> <td>—</td> <td colspan="2">二次全般と三次</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動				低段階	中段階	高段階	設定する学習活動				導入	展開	発展	終末	①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎	②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次			—	◎		—	③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		—	○	◎	◎	—	④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	—	—	◎	◎	○	⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	—	二次全般	二次前半	—	◎	◎	—	⑥友だちと学び合う子ども	—	二次全般		○	◎	◎	○	⑦自分で工夫し、発展していく子ども	—	二次全般と三次		—	○	◎	—	
【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動																																																																									
	低段階		中段階	高段階	設定する学習活動																																																																								
		導入			展開	発展	終末																																																																						
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども	二次半ば ～ 三次	二次全般		○	○	○	◎																																																																						
②できるようになったことを持続しようとする子ども	二次の最後～三次			—	◎		—																																																																						
③意欲をもち、自分から取り組む子ども	二次前半		—	○	◎	◎	—																																																																						
④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 ～ 二次半ば	二次前半	—	—	◎	◎	○																																																																						
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	—	二次全般	二次前半	—	◎	◎	—																																																																						
⑥友だちと学び合う子ども	—	二次全般		○	◎	◎	○																																																																						
⑦自分で工夫し、発展していく子ども	—	二次全般と三次		—	○	◎	—																																																																						

【国語】小学部／中学部／高等部 中・高段階

手順	条件及び視点	取り組むに当たって																																																																											
① 指導領域の前題材までの到達状況から、「表出像」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒の中で、段階が最も低い児童生徒が到達しているところから段階が最も高い児童生徒が1題材で到達できそうなどところまでの全ての「表出像」を挙げる</li> <li>○ 「表出像」が他の領域と関連がある場合は、関連する領域における到達状況も把握しておく</li> <li>※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「表出像」を挙げる</li> <li>○ この段階で「表出像」と関連する「教材」を大まかに検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画の評価及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を決める</li> <li>○ 「表出像」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「思考力・判断力・表現力等」の内容を具体化する</li> <li>○ 必要に応じて「小学校教科書」「☆本」「小学校学習指導要領」を参考にする</li> </ul>																																																																											
② 列挙した「表出像」を段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」を系統的に確実に習得したり、活用したりすることができるように、列挙した「表出像」を易→難の順に配列する</li> </ul>																																																																												
③ 段階化した「表出像」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍する児童生徒それぞれの学び取りの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする</li> <li>○ 「表出像」が他の領域と関連がある場合は、関連する領域における到達状況も踏まえて決定する</li> </ul>																																																																												
④ 指導内容の範囲となった「表出像」に必要な「知識及び技能」を列挙する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導内容の範囲として決定した「表出像」の中で、選択・適合したり、組み合わせたりしている「知識及び技能」の内容を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」の内容と同じ段階の「知識及び技能」の内容とのつながりを確認し、学習指導要領の「知識及び技能」の内容から、設定した「表出像」に必要なものを挙げる</li> </ul>																																																																											
⑤ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために「知識及び技能」の内容を細分化・段階化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手順④で挙げた「知識及び技能」の内容を細分化し、易→難の順に段階化する</li> <li>○ 国語の教科特性として、「知識及び技能」を理解していることの裏づけとなる姿が限定しづらいため、各項目の内容は児童生徒の姿ではなく、その内容に該当する様々な姿を包括できる表記で設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領解説の「知識及び技能」の内容についての解説を確認しながら行う</li> <li>○ 必要に応じて学習指導要領の内容と同段階の小学校の教科書を参考にする</li> <li>○ ここまでで挙げた「知識及び技能」の内容と本校の基本的な考え方を照らし合わせ、題材の中心として扱うものと配慮的に扱うものを検討しておく</li> </ul>																																																																											
⑥ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧と題材終了時までの「表出像」を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する</li> <li>○ 「表出像」には、教材の学習活動の中でできてほしい姿を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態把握の原則として、児童生徒の出方に対して正解も不正解も伝えない</li> <li>○ 実態把握時の姿だけではなく、学校生活全般の姿も踏まえて実態を把握する</li> </ul>																																																																											
⑦ 実態把握の結果から、中心として取り上げる「知識及び技能」を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知識及び技能」と「表出像」の実態把握の結果と本校の基本的な考え方を照らし合わせ、題材の中心として扱うことができる「知識及び技能」を取り上げるようにする</li> <li>○ 国語の教科特性から、「知識及び技能」を習得していると考えられる場合でも、それらを場面にに応じて選択・適合したり、組み合わせたりすることができるかという視点でも検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の中心として扱う「知識及び技能」は、以下の視点で検討し、決定する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1題材で達成可能な内容か</li> <li>・ 生活に生きる価値のある内容か</li> <li>・ 国語の題材で扱うべき内容か</li> </ul> </li> </ul>																																																																											
⑧ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教材」に興味・関心を持ち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「二次」の最後の時間までに行きわたった課題に繰り返し取り組んだり、「具体的状況」や「未知の課題」が「二次」とは異なる状況の中で習得した全ての「知識及び技能」を選択・適合、組み合わせたりする段階を「三次」と捉えて計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の題材目標を確定するために、題材終了時の「具体的状況」と「表出像」を具体化し、「三次」に設定する</li> <li>○ 題材終了時の「表出像」に到達するために必要な「具体的状況」と「表出像」を具体化し、段階化する</li> <li>○ 段階化したそれぞれの「表出像」に到達するために必要な「知識及び技能」の「できた姿」と「場面」「わかること」を具体化し、児童生徒それぞれの学び取りの傾向を考慮して、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の扱う時数を割り振り、「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対応する「表出像」を設定する</li> <li>○ 1時間ごとの「知識及び技能」のめあてを達成するための活動については、「思考力・判断力・表現力等」を身につけるための一連の学習活動の中で行うように計画する</li> <li>○ 「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、1時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を主として扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用の状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい</li> <li>○ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「わかること」を設定する際は、児童生徒の学び取りの傾向に応じて、以下に示す段階の中から適切なものを設定する <ol style="list-style-type: none"> <li>①「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階</li> <li>②「～がわかり」…理解する段階</li> <li>③「～に気づき」…既に理解していることから、新しいことを理解する段階</li> </ol> </li> <li>○ 「具体的状況」と「未知の課題」を具体化する際は、学習指導要領の内容の文言や学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にするるとよい</li> </ul>																																																																											
⑨ 「教材」の仕組みを決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する</li> </ul>																																																																												
⑩ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">【目的をもつ7つの子ども像】</th> <th colspan="3">設定する段階と目安となる題材の位置</th> <th colspan="4">設定する学習活動</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">低段階 二次半ば ～ 三次</th> <th rowspan="2">中段階</th> <th rowspan="2">高段階</th> <th colspan="4">◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない</th> </tr> <tr> <th>導入</th> <th>展開</th> <th>発展</th> <th>終末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども</td> <td></td> <td>二次全般</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②できるようになったことを持続しようとする子ども</td> <td></td> <td>二次の最後～三次</td> <td></td> <td>－</td> <td>◎</td> <td></td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>③意欲をもち、自分から取り組む子ども</td> <td></td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども</td> <td>二次前半 二次半ば</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども</td> <td>－</td> <td>二次全般</td> <td>二次前半</td> <td>－</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>⑥友だちと学び合う子ども</td> <td>－</td> <td>二次全般</td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑦自分で工夫し、発展していく子ども</td> <td>－</td> <td>二次全般と三次</td> <td></td> <td>－</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>	【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動				低段階 二次半ば ～ 三次	中段階	高段階	◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない				導入	展開	発展	終末	①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども		二次全般		○	○	○	◎	②できるようになったことを持続しようとする子ども		二次の最後～三次		－	◎		－	③意欲をもち、自分から取り組む子ども		二次前半	－	○	◎	◎	－	④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○	⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－	⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○	⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－	
【目的をもつ7つの子ども像】	設定する段階と目安となる題材の位置			設定する学習活動																																																																									
	低段階 二次半ば ～ 三次		中段階	高段階	◎：基本的に設定する ○：必要に応じて設定する －：基本的に設定しない																																																																								
		導入			展開	発展	終末																																																																						
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども		二次全般		○	○	○	◎																																																																						
②できるようになったことを持続しようとする子ども		二次の最後～三次		－	◎		－																																																																						
③意欲をもち、自分から取り組む子ども		二次前半	－	○	◎	◎	－																																																																						
④見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども	二次前半 二次半ば	二次前半	－	－	◎	◎	○																																																																						
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども	－	二次全般	二次前半	－	◎	◎	－																																																																						
⑥友だちと学び合う子ども	－	二次全般		○	◎	◎	○																																																																						
⑦自分で工夫し、発展していく子ども	－	二次全般と三次		－	○	◎	－																																																																						

「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

- ①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面が設定できるか
- ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか
- ③1つの教材でグループの児童生徒全員の指導内容を扱うことができるか
- ④興味・関心をもてるか